

らかに少ない。面接ではサービスの種類を13のカテゴリーに分けてその有無を尋ねた。すなわち、一般コンサルティング、ボランティアサービス（たとえば訪問サービス）、ものと知識の交換会〔?〕、健康・運動、栄養・食事、遊戯、手工芸、語学、ダンス・社交、教育・文化活動、サービス（書籍貸出し、送迎など）、その他、である。しかし、結果集計を行ううちに、これほど様々なサービスを隈なく揃えている施設はほとんどないことが判明したので、改めてカテゴリーを「社交と遊戯」、「ホビー・創作」、「運動・健康」、「その他」の4つに絞った。

13の集会所のうち週に1回しか活動を行っていないところが6カ所、ウィークデーは毎日活動しているところが2カ所ある<201>（表27）。しかし週末に活動しているところは1カ所もなかった。キリスト教教区の老人クラブの多くが非常に少ないスタッフ（ボランティア）でやりくりしているのに対して、市の集会所は先任スタッフとボランティア計130名を擁しドルトムント市の高齢者集会所としては最大である。プロテスタント教区の運営するメランヒトン教区集会所のスタッフ数は、同教区の回答によると先任1名、ボランティア79名とのことであった。

集会所が提供している活動プログラムは表28のとおり。最大規模で活動している集会所はヴィルヘルム＝ハンスマン＝ハウス（WHH）で、市内の集会所の中でも特別な立場にある<202>。活動プログラムも広範にわたり利用者数も非常に多い同集会所は、市の高齢者にとって中心的な存在である。実に様々な活動の機会を提供しているが、単純に開催回数で見ると健康関係の活動が最も多い。いまひとつの活動の重点はニューメディアである。

このほかの集会所が提供する活動は、主として社交と遊戯に重点が置かれている。また創作活動グループが組織されることも多い。これに対して運動グループは少なめである。基本プログラムとしてはこのほかに不定期であるが講演会なども開催される。ヴィルヘルム＝ハンスマン＝ハウス以外にも2カ所の集会所がインターネットカフェを運営したりインターネットの講習会を開いている。現在の活動をさらに拡大することを検討中と答えたのはヴィルヘルム＝ハンスマン＝ハウス（WHH）、プロテスタント教区パウ＝ゲルハルト老人サークル、プロテスタント教区メランヒトン老人サークル、カトリック教区老人サークル「私達の希望」の4カ所であった。

各集会所の利用者がどのような範囲から通って来るのかについては、確かな所はほとんど分からない。集会所近辺在住の高齢者が通って来るのが普通であるが、WHHにはかなり遠くに住む高齢者も訪れる。これにはWHHが市の中心に位置し、交通の便が良いことも追い風になっている<203>。

利用者に関するデータは表29に示したとおりである。週間利用者数ではWHHが約3500人と群を抜いて多く、その魅力を証明している。WHHの利用者は他と比べて（相対的に）高齢の老人が明らかに少ない。WHHの次に規模が大きいのはメランヒトン教区集会所で、週あたりの利用者数は350人、このほかにも週の利用者が100人以上のところはボニファティウス教区のアルテンシュトゥーベン [「お年寄りの小部屋」の意] と「私達の希望」教区施設である。いずれの集会所でも利用者に占める女性の割合は男性を大きく上回り、4カ所では利用者は女性ばかりであった。また高齢者の年齢層で見ると、次第に高齢化する傾向が顕著に見られ、いくつかの集会所では最大利用者グループは70歳以上80歳以下の高齢者であった。

表27 インネンシュタット東区集会所：活動日と時間

表28 インネンシュタット東区集会所：活動内容

表29 インネンシュタット東区集会所：利用者

〔脚注〕

- 191 市の人口密度の平均は1ヘクタールあたり21人（2000年）。
- 192 就労可能者全体に占める65歳以上の住民の割合（%）。
- 193 就労可能者全体に占める15歳以下の住民の割合（%）。
- 194 データは1996年のもの。これ以上新しいデータは残念ながらない。ドルトムント市（2000）参照。
- 195 ハイムパウ通りとギュンター通り沿いの居住区（詳細統計地区072）に特に多いが、一部はゲスラー通り（詳細統計地区082）にも居住。
- 196 ルントフスキ（1994）を参照。
- 197 面接における区長代理からの指摘。
- 198 ドルトムント市近距離交通計画（1997）および「バス交通網2000」を参照。
- 199 添付資料の表を参照。
- 200 3.5を参照。
- 201 補足説明：数値の記載のない集会所施設は、連絡がとれなかったか情報提供を断られたもの。
- 202 WHHは州政府から特に進んだ高齢者集会所と認定された。レッゲンティン&デットバーン＝レッゲンティン（2002）参照。
- 203 ASDのスタッフはWHHを「ケルネ在住者にとってはかなり遠い」と言っていたが、本文のこの記述は正しい。

(3) エーフィンク区での社会人口統計学的構成 (文献2 : 4. 2項)

(ア) 住民構成

エーフィンク区は市中心部の北からドルトムント市北端の市境までの地域にまたがり、メンゲーデ区、インネンシュタット北区、シャルンホルスト区と区境を接している。2.286ヘクタールの面積に35000人足らずの住民が住んでおり、住民数はドルトムント市の区としては最も少ない。1ヘクタールあたりの人口密度は15.4人で、これも数値としては低い。エーフィンク区は4統計地域に分けられ、詳細統計地区レベルでは8地区から成る。住民の地域配分には極めて大きな片寄りが見られる。すなわち全体の59%近くがエーフィンク統計地域に住んでいて、同地域の人口密度は1ヘクタールあたり27.9人と最も高い<204>。プレヒテン地域には25%、リンデンホルストには14%、そしてホルトハウゼンにはエーフィンク区全住民数のわずか1.3%しか住んでいない。

表30 : エーフィンク区における住民人口の構成 (2000)

エーフィンク区は調査を行った4つの区の中で最も「若い」。「未成年者の比率」は24.4%と市の平均に比べて際立って多い一方、「高齢者の比率」は28.1%で市の平均をわずかに上回る程度である。60歳以上の高齢者の割合は、エーフィンク区全体では25.6%であるが、詳細統計地区では注目値する高い数値が見られ、とりわけ詳細統計地区エーフィンク、プレヒテン南、ホルトハウゼンが顕著である。80歳以上の高齢者の比率はエーフィンク区全体では市の平均を下回る(3.3%)が、ホルトハウゼン(4.5%)、エーフィンク(3.7%)のふたつの統計地域は例外的に高く、特に後者の中の詳細統計地区エーフィンクは5.7%で突出している。

(イ) 移動

2000年、エーフィンク区では転出(市境を越える住居移動)により住民数が減少したが、市内での引っ越しによる増加がその減少を補って余りあり、収支的には住民数がわずかに増える結果となった。より詳細に見ると、市内部の移動により人口が最も増えたのは統計地域エーフィンクであった。またプレヒテンも移動による人口増を見たが、同時に市境を越える転出も多かった。

2001年にも住民数は微増した(+0.7%)。やはり転出を市内での引っ越しによる増加がカバーしてプラスに転じるというパターンであった。この年の住民数増加のトップは

リンデンホルスト統計地域で、133人の増加であった。

(ウ) 60歳以上の高齢者

調査を行った4区の中でエーフィンク区は最も「若い」区である。このことは60歳以上の高齢者層の構成にも見られる(表31)。高齢者のうち比較的「若い」層の比率は平均を上回っている一方、80歳以上の高齢者の比率はドルトムント市の平均よりも目立って低い。

表31：エーフィンク区における60歳以上の高齢者の年齢構成(2000)

1996年から2000年までに、60歳以上の高齢者人口は合計420人増え、増加率は5%近くに達した。60歳以上70歳までの高齢者の数にはほとんど変化がなかった一方、70歳以上80歳以下の人口は目立って増えた(約15%、300人)。また同じ時期に80歳以上の高齢者の数はわずかに減少している。以上より、エーフィンク区の高齢者の割合にも、インネンシュタット東区に似た推移が見られた。

表32：エーフィンク区における1996年から2000年までの60歳以上の高齢者人口の推移

(エ) 経済状況

社会庁のデータによると、エーフィンク区に住む高齢者世帯は主として低所得層から中程度の所得層である。就労可能人口に占める失業者の比率は10.1%で市の平均を上回っていた(2000年)。中でも特にリンデンホルスト統計地域の失業率は13.4%と際立って高かった。65歳以上の社会扶助受給者は2000年には8%(人数にすると180人)で、ドルトムント市の平均よりもわずかに低かった。社会福祉局によると、失業者はリンデンホルスト地域にやや集中する傾向が見られたという。しかし社会扶助に依存する割合は、高齢者と若年層ではむしろ高齢者の方が低い。45歳以上65歳までの受給者の受給者全体に占める比率は24%に達しているのである。インネンシュタット東区の場合のような「裕福な地域」はエーフィンク区には存在しないが、プレヒテン地域東部はその他の地域に比べて明らかに「より市民的」である。

(オ) 高齢者における一人暮らしと家族形態

エーフィンク区でも、高齢になるほどひとり暮らしの比率が急速に増える傾向にある。但し、エーフィンク区のひとり暮らしの老人の数は表 33 にも見られるように、インネンシュタット東区と比べて明らかに少ない。80 歳以上の高齢者層では、その比率は他区の水準に並ぶものとなっている。

表 33 : エーフィンク区の 60 歳以上の高齢者におけるひとり暮らしの比率 (1996)

表 34 は高齢者の家族形態をやや詳しく見たものである。これによるとエーフィンク区でも他区と同様に、高齢になるほど既婚男性の数が既婚女性の数を上回ってゆく。インネンシュタット東区と異なるのは主として比較的若い高齢者層である。50 歳から 60 歳までの高齢者で見ると、インネンシュタット東区ではほぼ 67%が既婚者であるが、エーフィンク区ではその比率が 79%に達している。またエーフィンク区の独身者と離婚者全体に占める若い高齢者層の割合はインネンシュタット東区よりも低い。

表 34 : エーフィンク区の 50 歳以上の住民の家族形態 (2000)

(カ) 外国人住民

2000 年のエーフィンク区在住の移民外国人の数は 5297 人で、その多くがトルコ系移民であった。同区の 14.8%という外国人の比率はドルトムント市の中で 3 番目に高い。外国人住民が集中するのはエーフィンク統計地域とリンデンホルスト統計地域で「ゲットー化」に近い傾向が見られるとのこと (社会福祉局による) であるが、この傾向には、難民割り当て協定にもとづいて受け入れられた難民 (主としてドイツ系ロシア人) の存在も大きい。外国人住民における高齢者の比率は 4.6%で、ここでもエーフィンク統計地域の数値は目立って高く (6.0%)、同地域の中でもとりわけ詳細統計地区ニーダーエーフィンク (8.1%) とオーバーエーフィンク (7.2%) に集中する傾向が見られた。逆にブレヒテンでは高齢の外国人住民は非常に少なく、ホルトハウゼンに至ってはゼロであった。

(4) エーフィンク区でのインフラストラクチュア (文献 2 : 4. 2 項)

(ア) 住居ならびに住宅地の構成

エーフィンク区は、最初からドルトムント市に属していたわけではない。現在のエーフィンク区の南部 (エーフィンク、リンデンホルスト、ケミンクハウゼン) は 1914 年

に合併され、残る部分（ホルトハウゼン、プレヒテン）も1928年にドルトムント市に併合された。エーフィングには古くから鉱坑があったため、居住地構成にも鉱坑富豪の邸宅と鉱坑労働者住宅の特色が残っている。持ち家率は最近になって顕著に高まっており、特にグレーフィングホルツ団地公園には、主として子供のいる若い家族が新居を構えている。エーフィング区の住宅地構成・地区構造は非常に不均質な様相を呈しているが、プレヒテン、ホルトハウゼン、エーフィング、リンデンホルストの各統計地域はそれぞれがまとまりをもった地域を形成している。一部には農村構造の残るところもあり、ケミンクハウゼンとホルトハウゼンに特に多い。一方、小規模な工場や一般商業地区の多いリンデンホルストは都市型である（図20）。これに対してプレヒテンは基本的に一つの独立した村落である。比較的大きいまとまった住宅街としてはリンデンホルスト地区のシャルツベルク居住区、「メルヘン居住区」(LEG)、旧ケミンクハウゼンの居住区などが挙げられる。エーフィング区にはまだ居住区開発の可能な比較的大きな土地が残っている（プレヒテナー・ハイデ、ケミンクハウゼンなど）。社会福祉局によると、地元の住宅建設会社が建てた住居には - 既に述べた - 外国人住民、それにポーランド系およびロシア系の受け入れ難民の集中的な入居が目立っているとのこと。

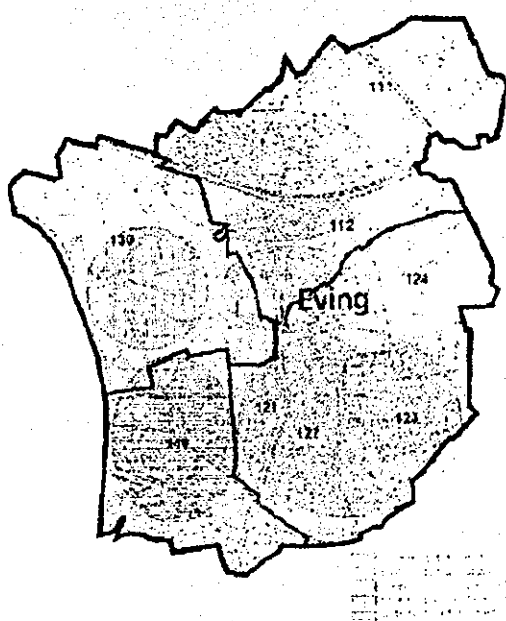


図20の凡例（上から）

プレヒテン（農村型構造）

エーフィング（住宅密集地、都市型）

グレーフィングホルツ（森林、農地利用）

ケミンクハウゼン（農村型構造、農地利用）

リンデンホルスト（農村型構造、工業用地）

図20：エーフィング区の居住区域

(イ) インフラストラクチュア

近年、建築・構造政策の努力の結果、エーフィンク区の居住性と生活の質は改善されてきた。区の中心部再開発および主として若い世帯向けの分譲住宅建設により、区内のインフラストラクチャも変化を遂げた。同区の新しい中心部に店開きした商店はどちらかという若い人にターゲットを絞っているが、商店街のカフェには高齢者も大勢足を運んでいる。徒歩で行ける中心部にマーケット広場と商店街がある。しかしケミンクハウゼン、コロニー・キルドルフ、ホルトハウゼン在住の身体障害者や歩行の困難な高齢者にとっては、近所で必要な買い物をするにはそう容易でなく、歩いて買い物に行くこともできないことが多い。これらの地区には小さな商店がほんのまばらにあるだけの純粋な住宅区画もある。

休息やレクリエーションのための広場、緑地帯などはエーフィンク区周辺に特に多く、中でもグレーフィンクホルツ森林地域はドルトムント市最大の森林地域である。このほか、小規模な公園や市民農園も多数ある。

エーフィンク区の交通は、南北を貫く地下鉄 49 号線（停留所：ミニスター・シュタイン、アムツシュトラッセ、エクステルンベルク、グレーフィンクホルツ）があるほか、路線バス 4 系統が「幹線交通機関」と接続している。住民アンケートの結果導入されたエーフィンク区の域内を循環するバスは、高齢者にも大変好評である<205>。何よりもこのバスは停留所以外の場所でも停まってくれるため、高齢者には非常に利用しやすい。交通接続の便は、社会事業所によると概して「充分」から「良い」との評価である。路線バス 410 番と 411 番がエーフィンク区中心部を貫いて東西を結んでおり、20 分から 30 分の間隔で運行されている。「バス路線ネットワーク 2000」が実施されてからは「アン・デン・タイヒェン」住宅街やノルトフリートホーフ [北墓地] にとっても、区中心部の商店街への足が改善された。しかし中心部からかなり離れたホルトハウゼンにはミニバス路線 473 番が 1 時間間隔でしか運行されておらず、プレヒテンの住宅街も 414 番のバスが時間間隔で通っているにすぎない。

(ウ) 健康および介護に関する施設の状況

エーフィンク区で高齢者医療を手掛けている施設としては、家庭医として開業している医院が 18（うち 3 医院は家庭内科医）、薬屋は 6 ある。総合病院は区域内にはないが、インネンシュタット北区と境を接する辺りの北区側に市立病院がある。また同区内には完全入所型ケア施設および介護付き高齢者住居が各 1 カ所ずつある。2003 年には 2 つ目の介護施設がオープンする予定。デイケアとショートステイのための介護施設は同区内には存在しない。訪問介護に関しては、6 つの介護サービス事業所がエーフィンク区

内に拠点を置いており、うち4カ所は民間の運営である。介護データバンクのデータによると、エーフィンク区を対象とした家事ヘルパーサービスは46、エスコートサービスと介護サービスが42、老人精神医療サービスが9、配食サービス6、給食サービス1となっている<206>。

エーフィンク区の入所型ケア施設に電話でアンケートを実施したところ、以下のデータが得られた：利用者数は施設の規模により異なるが40人から200人まで（添付資料の表を参照）、ただし要介護者の多くはエーフィンク区在住ではないとのことであった。また、同区の要介護者の平均年齢は80歳かそれ以上で、平均して70%以上が女性である。また介護サービス事業のひとつが対象を外国人高齢者に特化し各国籍のスタッフを揃えていたことは注目に値する<207>。

図21はエーフィンク区における高齢者専用施設の分布状況を示すものである。ここで目につくのは、そうした施設の多くが住民人口の多いエーフィンク統計地域に集中していることである。このほかには、いくつかの施設がプレヒテン統計地域（いずれも高速道路〔アウトバーン〕の北側）にあるだけで、ホルトハウゼンとリンデンホルスト地域は高齢者施設に関しては「休閒地」状態である。

図21：エーフィンク区における高齢者のための主な施設

（エ）文化施設、教育施設、集会所

エーフィンク区には、区境を越えて利用される文化施設や集会所はほとんどない。文化当局の報告を見ると、同区で音楽学校による活動や一連の催し物、コンサートがエーフィンク区文化局の援助を得て実施されている<208>。またこのほかにエーフィンク区社会人大学があり、2000年には通算33の講座やセミナーを開催した。エーフィンク区にはしかし、非常に多彩で活発な協会組織による活動がいくつもあり、総計54の協会組織が同区に拠点をもつ。活動内容は音楽、コーラス、伝統を守る会〔?〕（13）、市民農園協会（12）、住民協会（12）、その他、種々のペット飼育協会など。またこのほかに、さらに多数のスポーツ協会がある。こうした協会団体の多くが集まって「エーフィンク区協会活動協議会」（IEV）を組織している。また1997年からはZWARエーフィンク区グループも結成されている。

高齢者を対象とした集会所はエーフィンク区内に8カ所ある。このうち市の運営するもの、AWOの運営するものが各1カ所、カトリック教会教区の高齢者サークルが運営し

ているもの3カ所、プロテスタント系老人グループの運営になるもの2カ所である。市立集会所はウィークデーの5日間開かれており、AWO集会所は週に3日、老人サークル集会所のひとつは週に2回、3つのグループは週に1回開催されている（表35）。残る2カ所はわずか2週に1回開かれるだけである。

エーフィンク区の集会所の活動内容は社交と遊戯が多く（表36）、これに手芸・工作を加えたものが中心となっている。このほかに高齢者を対象としたテーマで講演会が開かれることもあり、また2カ所の集会所では体操グループの活動もある。全集会所のうちで将来、活動の枠を広げる計画のあるのはわずかに1カ所だけであった（AWOプラムパウアー）。比較的若い高齢者層のためにプログラムを用意している集会所が1カ所もなかったことは目を引いた。

利用者に関する統計（表37）を見ると、市立集会所は週の利用者数が約350名で他を大きく引き離して最も多い。このほかには、AWO集会所が週50人以上の利用を数えている。利用者の平均年齢は、インネンシュタット東区の平均年齢よりもさらに顕著に高齢で、女性の占める比率が高いという点でも似ているが、エーフィンク区の場合には女性の比率は100%に近い。

調査が行われた4つの区で比較すると、集会所の提供する活動プログラムについては、種類も需要の大きさもエーフィンク区が最下位であった。

表35：エーフィンク区集会所：活動日と時間

表36：エーフィンク区集会所：活動内容

表37：エーフィンク区集会所：利用者

< 脚 注 >

204 市の2000年の住民密度平均は1ヘクタールあたり20.9人。

205 ドルトムント市近距離交通計画、バス交通網2000バス路線ネットワーク2000を参照。

206 補足的サービスの場合、全市を対象とした介護サービスのサービス内容が優先的に表示される[?]という制約がここにもある。

207 余談ながら、この介護サービス事業者は事業や非常に良い成績をあげていると話してくれた。この分野には明らかにまだ経済的発展のチャンスがあると思われる。

208 ドルトムント市（文化事業）（2001）参照。

統計地域 詳細統計地区	人口		60歳以上の人口		80歳以上の人口		60歳以上の 外国人住民	
	人数	人数	%	人数	%	人数	% ⁽¹⁾	
カイザーブルネン(070)	23556	6237	26.5	1182	5.0	393	6.3	
カイザーブルネン西(071)	7754	1947	25.1	333	4.3	139	7.1	
カイザーブルネン中(072)	6767	1751	25.9	363	5.4	179	10.2	
カイザーブルネン・ケルネ(073)	9035	2539	28.1	486	5.4	75	3.0	
ヴェストファーレンダム (080)	17062	5520	32.4	1096	6.4	89	1.6	
ヴェストファレンダム北西 (081)	3715	1198	32.2	345	9.3	26	2.2	
ヴェストファレンダム北東 (082)	7021	2290	32.6	389	5.5	33	1.4	
ヴェストファレンダム南西 (083)	4161	1377	33.1	253	6.1	17	1.2	
ヴェストファレンダム南東 (084)	2165	655	30.3	109	5.0	13	2.0	
ルーアアレー (090)	12225	3498	28.6	678	5.6	66	1.9	
ルーアアレー西 (091)	7342	1964	26.8	378	5.1	46	2.3	
ルーアアレー東 (092)	4883	1534	31.4	300	6.1	20	1.3	
計	52834	15255	28.9	2956	5.6	548	3.6	

(1) 60歳以上の住民における比率

出典：ドルトムント市、統計・選挙局

表 22: インネンシュタット東区における住民人口の構成 (2000)

	インネンシュタット東区		比較対象：ドルトムント市の比率
	人数	比率	
60歳以上、計	15255	(100)	(100)
60歳-70歳	6665	43.7	49.7
70歳-75歳	2903	19.0	19.9
75歳-80歳	2731	17.9	15.3
80歳以上	2956	19.4	15.0

出典：ドルトムント市、統計・選挙局

表 23: インネンシュタット東区における60歳以上の高齢者の年齢構成 (2000)

	1996 人数	2000	
		人数	1996年比 (%)
60歳以上、計	14954	15255	+2.0
60歳-70歳	6466	6665	+3.1
70歳-75歳	3139	2903	-7.5
75歳-80歳	2243	2731	+21.8
80歳以上	3106	2956	-4.8

表24 インネンシュタット東区 1996年から2000年までの60歳以上の高齢者人口の推移

	人数 (総数)	うち、ひとり暮らし世帯	
		世帯数	全体に対する比率%
60歳-65歳	3303	1128	34.2
65歳-70歳	3163	1207	38.2
70歳-75歳	3139	1494	47.6
75歳-80歳	2243	1355	60.4
80歳以上	3106	2354	75.8

1) ケア施設居住者ならびに結婚せずに同居する人々も含む

表25 インネンシュタット東区 60歳以上の高齢者におけるひとり暮らしの比率 (1996)

高齢者年齢グループ		計	うち、同グループに占める比率%			
			既婚者	離婚者	独身者	配偶者と死別
50歳-60歳		6526	66.9	17.4	11.4	4.3
うち	男性	3129	69.1	16.1	13.1	1.8
	女性	3397	64.9	18.6	9.9	6.7
60歳-70歳		6665	65.3	12.2	8.6	13.9
うち	男性	2984	75.9	10.9	8.1	5.1
	女性	3681	56.7	13.3	9.0	21.0
70歳-75歳		2903	56.2	7.9	8.3	27.7
うち	男性	1151	79.8	5.3	4.8	10.2
	女性	1752	40.7	9.5	10.6	39.2
75歳-80歳		2731	43.4	5.6	8.9	42.0
うち	男性	865	76.8	3.9	2.5	16.8
	女性	1866	28.0	6.4	11.9	53.8
80歳以上		2956	23.9	4.3	7.4	64.5
うち	男性	694	65.3	3.3	1.9	29.5
	女性	2262	11.2	4.6	9.1	75.2

表26 インネンシュタット東区の50歳以上の居住者の家族形態 (2000)

施設番号	統計地域	活動日数		スタッフ		創設年
		日/週	時間/週	計	ボランティア	
1	071					
2	092	5	70	130	80	1970
3	072					
4	091	1	3	7	7	Ca.1970
5	082	1	2	7	6	1976
6	084	(0.5)	(1)	1	1	Ca.1960
7	072	5.5	35	80	79	1977
8	332	1	2	4	4	1983
9	092	5	10	14	14	1961
10	071	(1.5)	(5)	6	6	1969
11	082	1	3	5	5	1970
12	072	5	25	40	40	1977
13	073	1	3	2	2	1971

データ：4つの区の高齢者集会所に電話で行った問い合わせの結果

表 27 インネンシュタット東区集会所：活動日と時間

施設番号	若い高齢者 向けのプロ グラムはあ りますか？	定期プログラム			
		社交・遊戯	ホビー・ 創作	運動・ 健康	その他
1					
2	はい	ダンス (5%)	創作活動 (9%)	体操 (38%)	パソコン(14%)、 ビデオ(3%)、 ほか(11%)
3					
4	(はい)	コーヒー、 遊戯	歌		講演
5	いいえ	コーヒー、 遊戯			女性グループ、 インターネット
6	いいえ	コーヒー			講演、祈祷会
7	はい	コーヒー、 ダンス、 遊戯	創作のタ ベ、音楽、 手芸		インターネット、 遠足、講演、 弁論コース
8	いいえ	コーヒー			講演
9	いいえ	コーヒー、 ダンス、 遊戯	手芸、工作、 料理	体操	講演
10	いいえ	コーヒー、 ダンス、 遊戯	創作のタ ベ、 コーラス	体操	討論会
11	いいえ	コーヒー、 ダンス、 遊戯	歌	体操	スライドつき 講演
12	いいえ	コーヒー、 遊戯	歌、お菓子 づくり		講演
13	いいえ	コーヒー、 遊戯	バザー		旅行

データ：4つの区の高齢者集会所に電話で行った問い合わせの結果

表 28 インネンシュタット東区集会所：活動内容

施設番号	統計地域	利用者概数 ／週	女性の比率	60歳から 70歳の高 齢者の比率	70歳から 80歳の高 齢者の比率	80歳以上 の高齢者の 比率
1	071					
2	092	Ca. 3500	Ca 75%	Ca 37%	Ca 41%	Ca 5%
3	072					
4	091	20	100%	Ca 25%	Ca 65%	Ca 10%
5	082	60	Ca 90%	Ca 50%	Ca 30%	Ca 20%
6	084	(15)	100%	5%	20%	75%
7	072	350	Ca 70%	Ca 25%	Ca 15%	Ca 60%
8	332	30	100%		Ca 66%	Ca 33%
9	092	120	Ca 90%	Ca 10%	Ca 20%	Ca 70%
10	071	120	Ca 70%	Ca 50%	Ca 30%	Ca 20%
11	082	25	Ca 85%		Ca 40%	Ca 60%
12	072	60	Ca 66%	Ca 25%	Ca 50%	Ca 25%
13	073	20	100%	Ca 50%	Ca 20%	Ca 30%

データ：4つの区の高齢者集会所に電話で行った問い合わせの結果

Ca: 約

表 29 インネンシュタット東区集会所：利用者

統計地域 詳細統計地区	人口	60歳以上の人口		80歳以上の人口		60歳以上の 外国人住民	
	人数	人数	%	人数	%	人数	% ⁽¹⁾
Brechten(110)	8876	2336	26.3	230	2.6	30	1.3
Brechten-Nord(111)	5286	1372	26.0	124	2.4	14	1.0
Brechten-Süd (112)	3590	964	26.9	106	3.0	16	1.7
Eving (120)	20708	5506	26.6	760	3.7	330	6.0
Niederefing (121)	3685	876	23.8	129	3.5	71	8.1
Eving (122)	3882	1154	29.7	212	5.7	30	2.6
Overeving (123)	11360	3089	27.2	374	3.3	221	7.2
Kemminghausenn (124)	1781	387	21.7	45	2.5	8	2.1
Holthausen (130)	470	123	26.2	21	4.5	0	—
Lindenhorst (140)	5093	1023	20.1	145	2.9	50	4.9
計	35147	8988	25.6	1156	3.3	410	4.6

(1) 60歳以上の住民における比率

出典：ドルトムント市、統計・選挙局

表 30 エーフィング区における住民人口の構成 (2000)

	エーフィング区		比較対象：ドルトムント市の比率
	人数	比率	
60歳以上、計	8988	(100)	(100)
60歳-70歳	4540	50.5	49.7
70歳-75歳	1935	21.5	19.9
75歳-80歳	1357	15.1	15.3
80歳以上	1156	12.9	15.0

出典：ドルトムント市、統計・選挙局

表 31 エーフィング区における60歳以上の高齢者の年齢構成 (2000)

	1996 人数	2000	
		人数	1996年比 (%)
60歳以上、計	8568	8988	+4.7
60歳-70歳	4502	4540	+0.8
70歳-75歳	2868	3292	+14.8
75歳-80歳	1074	1013	-5.7
80歳以上	142	143	+0.7

表 32 エーフィンク区における 1996 年から 2000 年までの 60 歳以上の高齢者人口の推移

	人数 (総数)	うち、ひとり暮らし世帯	
		世帯数	全体に対する比率%
60歳-65歳	2272	577	25.4
65歳-70歳	2230	685	30.7
70歳-75歳	1779	760	42.7
75歳-80歳	1089	609	55.9
80歳以上	1216	924	76.0

ケア施設居住者ならびに結婚せずに同居する人々も含む

表 33 エーフィンク区における 60 歳以上の高齢者におけるひとり暮らしの比率 (1996)

高齢者年齢グループ		計	うち、同グループに占める比率%			
			既婚者	離婚者	独身者	配偶者と死別
50歳-60歳		4291	78.9	10.2	6.5	5.2
うち	男性	2175	78.9	11.0	9.7	2.0
	女性	2116	78.9	9.5	3.3	8.4
60歳-70歳		4540	74.6	6.9	4.3	14.6
うち	男性	2241	81.0	7.0	6.3	6.2
	女性	2299	68.3	6.7	2.3	22.7
70歳-75歳		1935	61.1	4.2	2.2	32.3
うち	男性	848	79.3	4.1	2.4	14.0
	女性	1087	47.0	4.3	2.1	46.6
75歳-80歳		1357	45.3	3.8	2.8	48.1
うち	男性	458	72.5	4.4	2.4	20.7
	女性	899	31.5	3.5	3.0	62.1
80歳以上		1156	24.0	3.6	2.3	69.9
うち	男性	329	59.0	2.7	0.6	37.1
	女性	827	10.0	4.0	3.0	83.0

表 34 エーフィンク区の 50 歳以上の居住者の家族形態 (2000)

施設番号	統計地域	活動日数		スタッフ		創設年
		日/週	時間/週	計	ボランティア	
1	(111) Brechten	3	6	8	8	1981
2	(122) Eving	5	42.5	11	4	1979
3	(122) Eving	1	2.5	3	3	1974
4	(111) Brechten	(0.5)	(1)	2	2	1984
5	(124) Eving	1	3	4	4	1981
6	(111) Brechten	1	3.5	3	3	Ca 1980
7	(123) Eving	(0.5)	(1.5)	5	5	1980
8	(140) Linden- horst	2	6	7	7	1967

データ：4つの区の高齢者集会所に電話で行った問い合わせの結果

表 35 エーピング区集会所：活動日と時間

施設番号	若い高齢者 向けのプロ グラムはあ りますか？	定期プログラム			
		社交・遊戯	ホビー・ 創作	運動・ 健康	その他
1	いいえ	コーヒー、 遊戯	手芸		朝食
2	いいえ	コーヒー、 遊戯	手芸、裁縫	体操、太極 拳、ダンス	語学、講演
3	いいえ	遊戯、社交			講演
4					
5	いいえ	コーヒー、 遊戯	工作		
6	いいえ	コーヒー、 遊戯		体操、頭の 体操	講演
7	いいえ	コーヒー、 社交			講演
8	いいえ	コーヒー、 遊戯	手芸、裁縫		講演

データ：4つの区の高齢者集会所に電話で行った問い合わせの結果

表 36 エーフィンク区集会所：活動内容

施設番号	利用者概数 ／週	女性の比率	60歳から 70歳の高 齢者の比率	70歳から 80歳の高 齢者の比率	80歳以上 の高齢者の 比率
1	60	Ca 90%	--	Ca 33%	Ca 33%
2	350	Over 90%	Ca 15%	Ca 50%	Ca 35%
3	40	100%	Ca 5%	Ca 15%	Ca 80%
4	15	100%	Ca 5%	Ca 5%	Ca 90%
5	20	100%	--	Ca 40%	Ca 60%
6	30	Ca 66%	Ca 50%	Ca 35%	Ca 15%
7	40	Ca 75%	(n.b.)	(n.b.)	(n.b.)
8	30	Ca 85%	Ca 15%	Ca 35%	Ca 50%

データ：4つの区の高齢者集会所に電話で行った問い合わせの結果

Ca: 約

表 37 エーフィンク区集会所利用者

第6章 大都市近郊における高齢者の生活とコミュニティ参加：多摩・所沢・吹田での実態と今後に向けた示唆

1、序

戦後、日本の経済社会構造の変化にともない、農村部から都市周辺へと労働者人口が大量に移動した。こうした人の中には都市周辺で結婚し、子どもを育て、定年退職まで定住してきた者が多くみられる。都市の中心部から郊外に至るまで、こうした地方出身の労働者が定住してきた地域は数多く存在する。彼ら／彼女らは定年退職した今、地域社会でいかに生活しているのだろうか。その一端を探るのが本章の目的である。

大都市郊外に住む定年退職者にとって、現役時代の日常生活の中心は職業であり(岡村 1997: 47、柳 2002)、家庭や地域ではなかったことはしばしば指摘される。昼間は都心で働き、帰宅するのが夜中という生活は珍しいものではなく、休日に出勤することも少なくなかった。そのため、近隣のつきあいは、ほとんどの労働者にとって第1次的な人間関係でなかった。

しかし、多くの人にとって定年退職とともに様相は一変し、都心の人脈とのつきあいは途切れてしまう。となれば、日常生活の基本となる人脈は、自ずと家族や地域になってくる。しかし、同居家族(自分の子や孫など)は昼中職場や学校に行ってしまう。それどころか都市近郊の団地地域では、住宅事情により子どもはほとんど同居していない。別居している子たちも、日中高齢者を相手にするほど余裕はない。

そこで注目されるのが、近隣住民をはじめとした地域社会である。近年、高齢者の社会参加が、生きがいや老化防止のために叫ばれているのは周知の事実であるが(参考・小西 1989: 51-2)、それまでの数十年間、地域の人脈とは疎遠で過ごしてきた定年退職者にとって、急につきあいを持つことは容易でない。参加のきっかけをどうつかんだらよいのか、参加したとしても何を話したらよいのか、どんな態度で接すればよいのか、自分の役割はいかなるものなのかなど、不安はつきない。

こうした際に、インフォーマルな近隣の友人を自らが築いてゆくのではなく、むしろフォーマルに地域社会への参加を手助けするのが、自治会あるいは老人会である。農村部や古くからの下町などとは、大都市近郊の自治会は質的に異なるものがある。農村部よりも都市部では自らが主体的に関係を築くことの必要性は指摘されてきた